



2027年3月期

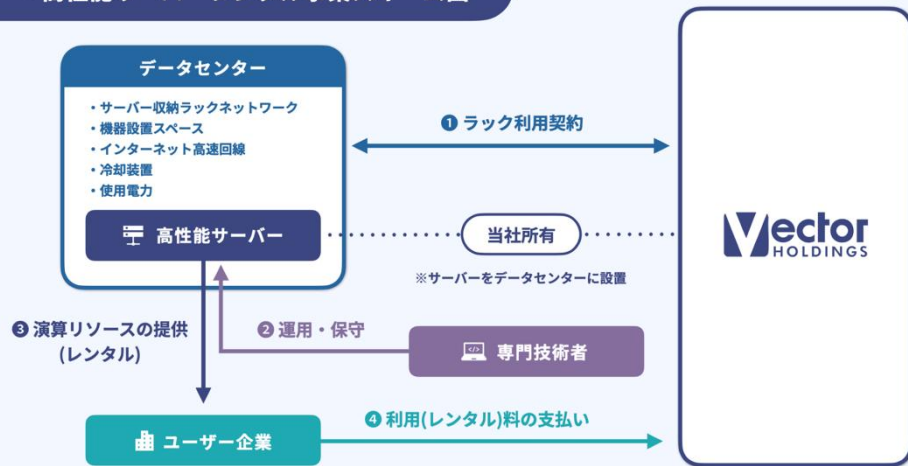
AIインフラ事業 取組み及び今後の展望

株式会社ベクターホールディングス（証券コード：2656）

2026年5月18日

高性能サーバーの演算リソース提供で、AIインフラ事業を新規収益の柱に

・高性能サーバーレンタル事業スキーム図



- 1 ラック利用契約** ベクター社は、データセンターとラック利用契約を締結し、高速回線・電力・冷却設備などのインフラを活用して、AI処理に用いられる高性能サーバーを設置しています。
- 2 運用・保守** 設置されたサーバーは、専門技術者による運用・保守のもとで管理され、安定した稼働環境が維持されます。
- 3 演算リソースの提供 (レンタル)** ベクター社は、この高性能サーバーの処理能力（計算処理機能）を、ユーザー企業に対して年間契約で提供します。ユーザー企業は、ベクター社が設置したサーバーを遠隔で利用し、AI開発やデータ解析などの計算処理を実行することができます。
- 4 利用(レンタル)料の支払い** その対価として、ユーザー企業は利用料をベクター社に支払います。

事業立ち上げまでの主要マイルストーン

2025年5月30日
第三者割当による新株式及び第12回新株予約権の発行
(高性能サーバー購入資金の調達)

FY2026中
先進的かつ必須であるAI演算対応の高性能サーバーを取得

2026年2月20日
第三者割当による新株式及び第14回新株予約権の発行
(追加サーバー購入・成長資金の調達)

2026年3月16日
CUE Digital International Pte. Ltd. との利用契約締結

CUE Group中核企業との高性能サーバー利用契約により、AI事業の収益基盤を確立

2026年3月16日

各位

会社名 株式会社ベクターホールディングス
 代表者 代表取締役社長 岩井 美和子
 (コード番号: 2656)
 問合せ先 取締役 吉田 修
 (TEL 03-6304-5207)

高性能サーバーレンタル事業の受注に関するお知らせ

当社は、本日、高性能サーバーレンタル事業（以下、「本事業」といいます。）において、グローバルデジタル企業である CUE Group との利用契約（以下、「本契約」といいます。）を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 概要

当社は、ICT 社会の基盤を支える総合 AI インフラ企業への転換を図り、持続的な成長と企業価値の向上を目指し、2025年5月30日付「第三者割当による新株式及び第12回新株予約権の発行並びに主要株主の異動に関するお知らせ」及び2025年10月24日付「資金使途の変更に関するお知らせ」並びに2026年2月20日付「第三者割当による新株式及び第14回新株予約権の発行並びに第三者割当契約締結に関するお知らせ」にて公表しましたとおり、第三者割当による新株式及び新株予約権の発行により調達した資金を活用し、新たな取組みとして、導入した先進的な高性能サーバーを自社で資産として保有しつつ、高度なノウハウを持つパートナー企業との協業による運用・管理を行い、設備投資と外部環境を組み合わせた効率的かつ柔軟な運営体制という拡張性の高い事業モデルの実現に向けて準備を進めて参りました。

この度、法人顧客等からの大容量かつ継続的な計算資源需要に対して演算リソースを提供する本事業において、CUE Group（注）の中核であり持株会社である Cue Digital International Pte. Ltd.（詳細は、相手先の概要を参照）との間で、当社の所有する高性能サーバーの演算リソースをレンタルすることを目的として本契約を締結いたしました。なお、本契約によるサービスの対価として年間1,200百万円の収入を見込みます。

当社の導入したサーバーは、データを暗号化したまま計算処理を行う「完全準同型暗号（FHE）」技術の実装に対応しており、金融・医療等の機密性の高いデータを扱う領域においても、高いセキュリティレベルを担保した運用が可能となります。

今後は、演算リソースの提供に加え、パートナー企業との連携によるソリューションサービスの展開も視野に入れております。当社の AI インフラを活用することで、顧客企業の AI 導入・運用を支援し、国内における AI 活用の裾野拡大に貢献するとともに、自治体等との連携を通じて地域課題の解決やデジタル社会の基盤構築にも寄与して参ります。

CUE Groupの中核企業とは、2026年3月16日付で、1年間・総額12億円規模の高性能サーバー利用契約を締結しました。本契約により、当社はAI関連事業における継続的な収益基盤を確立し、高性能サーバーレンタルを中心としたAIインフラ事業を本格的に開始しました。

また、当該サーバーはFHE（完全準同型暗号）技術の実装に対応可能であり、金融・医療等の機密性の高いデータを扱う領域においても、高いセキュリティ水準を備えたAI処理基盤としての活用が期待されます。

項目	内容
契約相手方	Cue Digital International Pte. Ltd. (CUE Group の中核であり持株会社)
契約内容	当社所有の高性能サーバーの演算リソースをレンタル
締結公表日	2026年3月16日
FY2026 売上計上額	50百万円（主要顧客として注記）



CUE Groupについて

CUE Groupは、2018年に設立されたグローバル・デジタルテクノロジー企業であり、ビッグデータ、AI、ビジュアル解析、デジタルマーケティング、スマートリテール、スマートシティ、コンテンツ/IP領域等のソリューションを提供しています。主な展開先としては、シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、オーストラリア、欧州等で事業展開をしています。

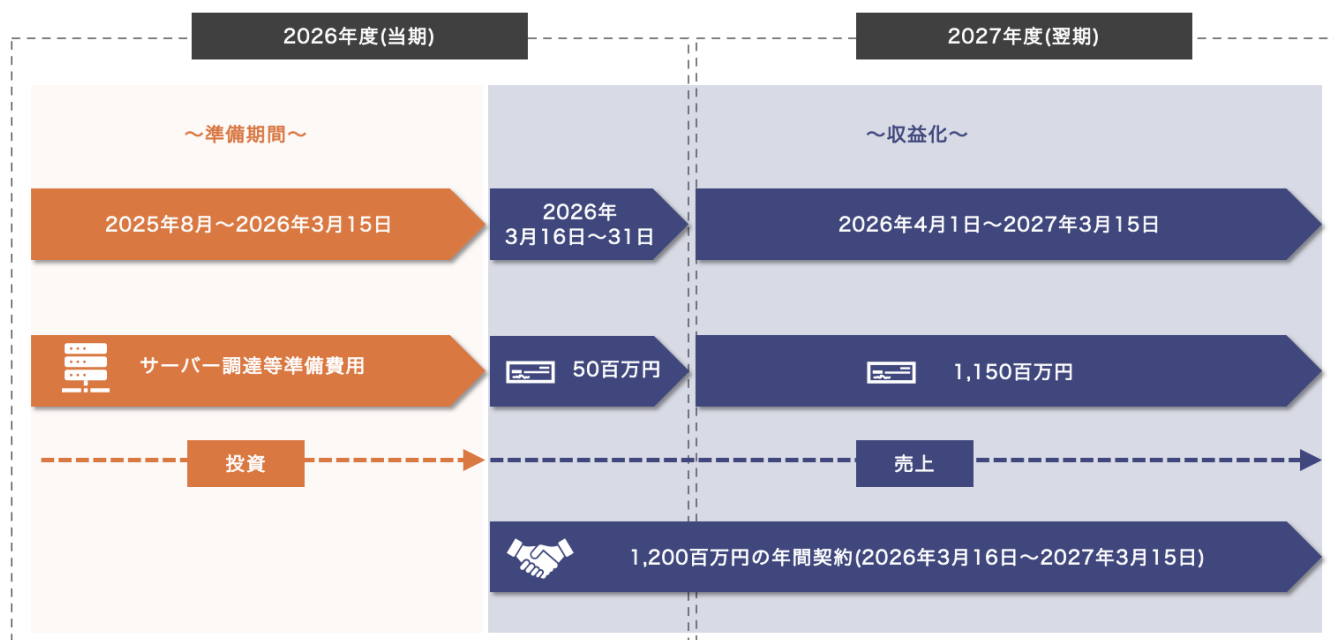
受賞歴

 Mob-Ex Awards 2019	 Campaign Brief Asia	 Mumbrella Asia Awards	 Shorty Social Good Awards
 Kancil Awards	 Marketing PR Awards 2017	 Spikes Asia	 ICSC Global Awards Asia-Pacific

取引先

売上計上スケジュール

本契約は、CUE社向けに高性能サーバー2台分の演算リソースを提供する利用契約であり、契約に基づき利用期間に応じて売上を計上します。2025年8月から2026年3月までは、サーバー調達、設置、稼働準備等に係る準備期間であり、当該期間においては主に先行費用が発生します。その後、2026年3月16日から2026年3月31日までの約0.5ヶ月分について、利用料50百万円を売上計上します。さらに、2026年4月1日から2027年3月15日までの期間については、利用料1,150百万円を売上計上する予定です。これにより、本契約に基づく利用料総額は1,200百万円となり、AI関連事業における継続的な収益基盤となります。

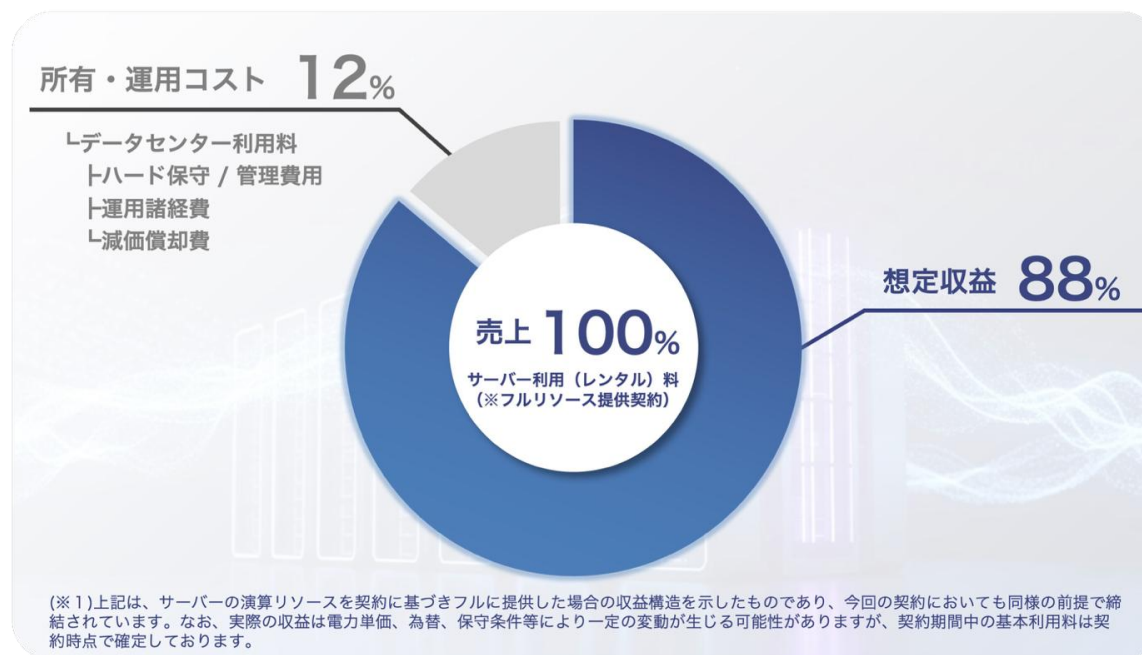


高単価契約と低コスト運用による高収益化

本事業は、汎用サーバーではなく高性能GPUサーバー等を対象としており、非常に優れた処理性能を有することから、1台あたりの年間契約単価は高水準となります。また、本契約は、高性能サーバー2台分の演算リソース（計算処理能力）をフルに確保した状態で提供する契約形態であり、契約締結時点で当社の当該リソースは占有されます。

そのため、本収益は稼働状況に応じて変動するものではなく、契約に基づき安定的に発生する収益となります。一方で、当該サーバーを設置・稼働させるためのデータセンター費用（電力・ラック・回線等）は、高性能かつ効率的な設計により、売上に対して相対的に低い比率に収まります。

この「売上単価の高さ」と「コスト効率」の組み合わせにより、高い収益性が実現されます。



(※1)上記は、サーバーの演算リソースを契約に基づきフルに提供した場合の収益構造を示したものであり、今回の契約においても同様の前提で締結されています。なお、実際の収益は電力単価、為替、保守条件等により一定の変動が生じる可能性があります。契約期間中の基本利用料は契約時点で確定しております。

強固な国内電力網を活用し、ネットワーク越しに計算力を提供

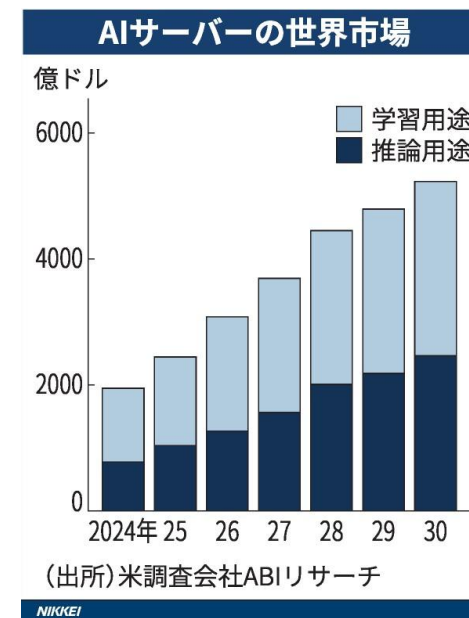
高性能サーバーは、AI開発、生成AI、動画生成、ローカルLLMの推論等の用途拡大により、世界的に需要が高まっています。日本国内においても、高性能サーバーの導入やAI向けクラウドサービスの展開を進める企業が増加しており、今後もAI関連の計算力需要は拡大していくことが見込まれます。

一方で、東南アジアをはじめとする一部の地域では、AI計算需要の増加に対して、電力供給やデータセンターインフラの整備が追いつかない可能性があります。このような状況に対し、当社は、日本国内の安定した電力・通信基盤に設置した高性能サーバーを活用し、ネットワークを通じて計算力を提供するサーバーレンタル事業を展開してまいります。

本事業では、利用企業が自社で高性能サーバーを購入・設置することなく、必要な計算処理能力を外部から利用できる仕組みを提供します。これにより、電力・設備・運用体制等の制約を受ける企業に対して、AI開発やAIサービス運用に必要な計算リソースを柔軟に提供することが可能となります。

市場環境についても、米調査会社ABIリサーチによれば、AIサーバーの世界市場は2030年に5,240億ドル、約82兆円規模となり、2025年比で約2倍に拡大する見通しとされています。こうした世界的な需要拡大を背景に、日本国内においても高性能サーバーを活用したAI計算力サービスの需要は増加していくと考えられます。

現時点で想定される主な用途としては、動画生成・レンダリング、ローカルLLMの推論、生成AIサービスの運用、AIアプリケーション開発、機密データを扱う企業向けAI処理基盤等が挙げられます。



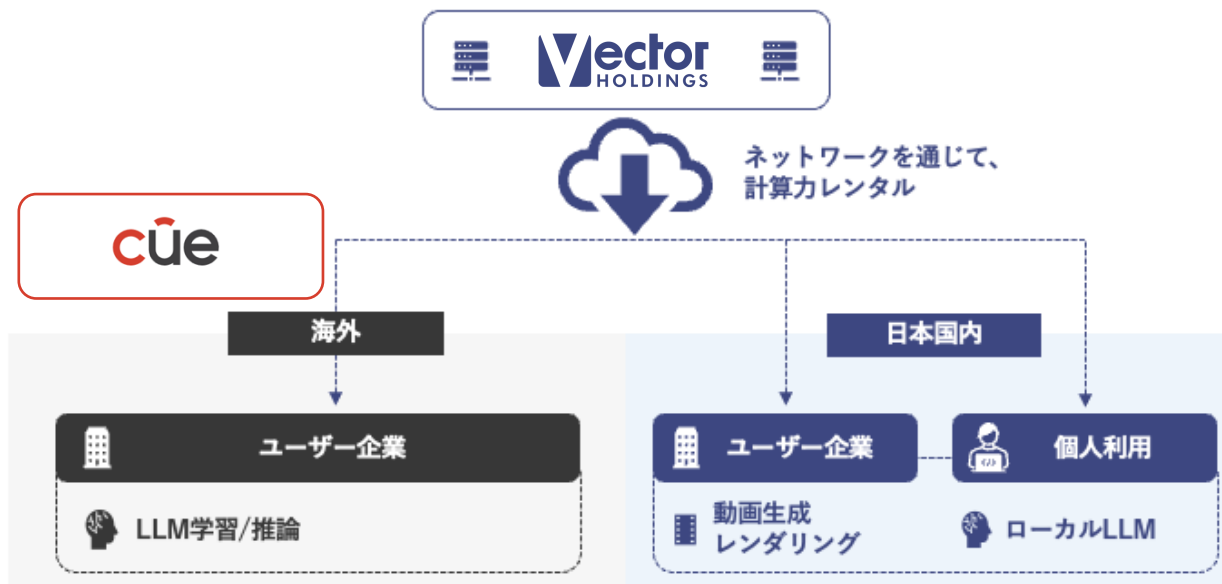
引用：「日本経済新聞_20260508」

CUE社との連携により海外需要を開拓し、国内では法人・個人向けに計算力を提供

当社は、高性能サーバーの演算リソースをネットワーク経由で提供するサーバーレンタル事業を展開してまいります。海外市場については、CUE社の支援を受け、AI開発やLLM学習・推論等の計算需要を有する企業の獲得を目指します。

日本国内では、当社が主体となり、法人・個人向けに動画生成、レンダリング、ローカルLLMの推論、AIアプリケーション開発等の用途への提供を進めます。加えて、高いセキュリティ水準が求められる医療機関、金融機関、研究機関等に対しても、機密性の高いデータを扱うAI処理基盤としての活用可能性を検討しています。

今後は、海外・国内それぞれの需要特性を踏まえ、一般的なAI計算需要に加え、高セキュリティ領域における需要も開拓し、利用者の拡大とサーバー稼働率の向上を目指します。



第三者割当により、サーバー投資資金と成長資金を機動的に調達

当社は、2025年5月および2026年2月に第三者割当による新株・新株予約権の発行を実施し、高性能サーバー購入資金およびAI関連事業の成長資金を機動的に調達しました。

資本調達の経緯

時期	アクション	主な目的	時期
2025年5月30日 公表	第三者割当による新株式及び第12回新株予約権の発行	高性能サーバー購入資金	2025年5月30日 公表
2026年2月20日 公表	第三者割当による新株式及び第14回新株予約権の発行並びに第三者割当契約締結	さらなる高性能サーバーの購入と成長資金	2026年2月20日 公表

資本構成の変化

項目	FY2025末	FY2026末	増減
期末発行済株式数	20,047,000株	30,088,000株	+10,041,000株
資本金	1,843,763千円	2,520,459千円	+676,696千円
資本剰余金	2,232,760千円	2,909,457千円	+676,697千円
新株予約権	3,885千円	48,923千円	+45,038千円

